

「まなびの広場」は那須教育事務所ホームページに掲載されます。  
<https://www.pref.tochigi.lg.jp/m56/system/desaki/desaki/nasu-kyouiku01.html>

毎月第3日曜日は「家庭の日」

## ふれあい人権の集い

令和3年12月7日（火）、GUNEI 三島ホールを会場に、那須地区人権教育指導者一般研修「ふれあい人権の集い」を開催しました。

「障害のある人と人権～誰もが住みよい社会の実現のために～」を演題に、NPO 法人アクセシブル・ラボ代表理事 大塚 訓平 氏による講演を行いました。健常者、障害者のどちらも経験しているという視点で、実体験や具体的な事例を織り交ぜながら御講話いただきました。

参加者からは、「当事者の立場に立って考えることも大切だと知った。」「平等より公平という言葉が心に残った。」等の感想をいただきました。障害者の人権について考え、人権感覚を高める貴重な機会となりました。



NPO 法人アクセシブル・ラボ  
代表理事 大塚 訓平 氏

## 那須地区ふれあい学習ネットワーク

那須地区ふれあい学習ネットワーク兼地域コーディネーター養成事業地域実践交流会を、オンデマンド配信（1月25日（火）～2月8日（火））で開催しました。

第1部は、那須地区ふれあい学習推進会議についての紹介動画を、第2部では、「幸せに満たされる練習～思いやりを科学する～」と題して、浄土宗光琳寺住職 井上 広法 氏による講話を配信しました。

視聴された方から、「誰かのために行動することが自分の幸せにもなるということがとてもすてきでした。」「自利利他、自分が満たされることで、初めて他者を利することができるという考え方に感銘を受けました。」等の感想をいただきました。



浄土宗光琳寺住職  
井上 広法 氏

## 那須地区ふれあい学習推進会議

### ■「ふれあい学習」とは？

本県では、幅広い年代の人々との交流活動や体験活動、学習活動を「ふれあい学習」として推進しています。学校・家庭・地域社会が連携・協力し、子供の「生きる力」を育みながら、家庭と地域の教育力の向上を目指しています。

### ■那須地区ふれあい学習推進委員

本年度は、各市町の地域活動実践者、小・中・県立学校の教職員、各市町の教育委員会職員により構成されています。

### ■那須地区ふれあい学習推進会議

本年度のふれあい学習推進会議では、これからも地域づくりが継続、充実そして発展していくための参考として、これまで行われてきた「ふれあい学習」の取組を事例集としてまとめました。

実践事例集は、那須教育事務所ホームページからダウンロードすることができますので、ぜひ御覧ください。



「那須地区ふれあい学習実践事例集」PDF ファイル

# がんばる学校・地域！応援プロジェクト

モデル校の、大田原市立湯津上中学校は、「地域の一員としての自覚をもち、主体的に地域活動に参画できる生徒の育成」、那須塩原市立大貫小学校は、「学校統合後も、学校と地域の連携・協働体制を持続可能なものにするための素地づくり」をそれぞれ目的として本事業に取り組みました。

今号では、各学校の一年間の取組をまとめました。ぜひ参考にしてください！！

## 大田原市立湯津上中学校

湯津上地区の小中一貫教育（雄飛が丘学園）では、総合的な学習の時間（雄飛が丘タイム）において、小学校3年生から中学校3年生までの7年間を通し、地域に関する系統的な学習を行っています。そこで、本プロジェクトでは、小学校で培ったスキルを基に、地域のよさや地域とのつながりを実感できる活動を通して、地域の一員としての自覚を高め、主体的に地域活動に参画できる生徒を育むことを目的として取り組みました。

コロナ禍においても、学校と地域の連携・協働を推進しようと、恒例の高齢者宅訪問に変え、生徒が手作りしたマスクと絵手紙を一括で贈ることで間接的に交流を図りました。また、上侍塚古墳の発掘作業やこも巻き、地元の歴史資料館長・学芸員・地元神社宮司の講話やリモート交流による地域理解活動、生徒会が企画したクリーン運動による地域貢献活動等にも取り組みました。今後も、市生涯学習課の人材登録バンクを活用したり地域コーディネーターとの連携を密に図ったりして、活動を更に充実させていきたいと考えています。



マスク・絵手紙の贈呈



こも巻き

## 那須塩原市立大貫小学校

本校と大貫地区の既存の連携・協働関係を、統合後の常根学園でも持続させたいと考え、研修で学んだことを生かし閉校後に向けて可能性を探りました。

統合を見据え、以前より3小学校合同で学習活動を実施しています。今回は、その一環として、本校を会場に「おはぎ作り体験」を行いました。おはぎに使う米は、米作りが盛んな大貫地区の米を使用し、講師は大貫地区の住民が務めました。

今までは、「大貫小＝大貫地区」という意識でしたが、今後は、学校も地域も「義務教育学校＝大貫地区＋関谷地区＋横林地区」という意識をもつことが大切だと思います。今回の活動は、統合後も学校と地域の連携・協働関係を継続していくための素地づくりと捉え実施しました。統合まで残り一年余りですが、今後は、「おはぎ作り」を学校と地域をつなぐシンボリックな活動にするための方策を模索していきたいと思ひます。



おはぎ作り体験



研修「閉校後の可能性を探る」  
(Web会議ツールを活用)